

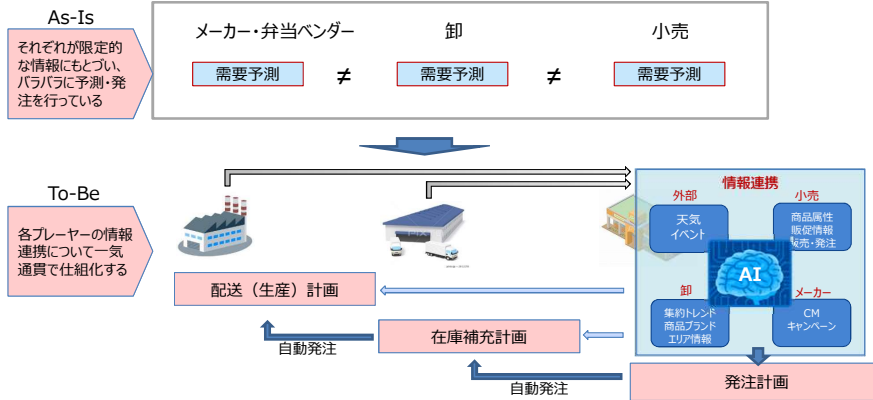
背景：

昨今の食品ロス削減気運の高まりや、サプライチェーン全体にかかる配送費・人件費の急騰を受け、効率化及び残在庫削減を目的とした予測精度向上が急務であった。



**目的
仮説**

- 消費者との接点である小売での需要予測を起点として⇒卸⇒メーカー（上流）につなげることで、Bullwhip効果を抑止し、過剰在庫・在庫ロス・欠品を削減する
- 販売・発注・在庫・マーケティングなどの情報連携を行い、小売・卸・メーカーなどの各プレイヤーの在庫コントロールを一気通貫で実施する



Copyright ©2019 by ALIGN Inc.

卸での実績：

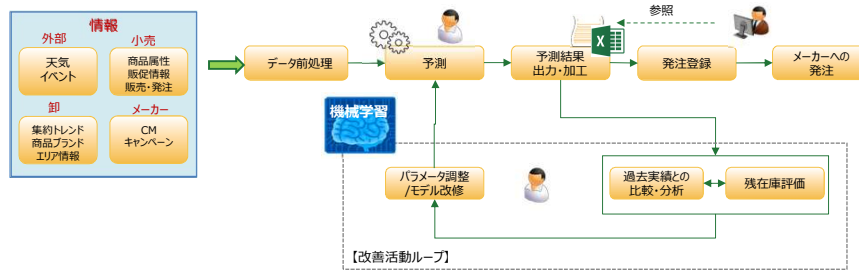
業務担当者が自ら使いこなせるような環境を整備しTCOを最小化。予測精度向上による残在庫削減だけでなく、継続的に改善可能なPDCAサイクルを確立。



実績

- 本格運用段階においてデータサイエンティストやシステムエンジニアがいなくても業務がまわるようなクラウド・機械学習環境を整備しTCOを最小化
- 新たな情報の追加やパラメータ化など、業務担当者の経験にもとづいて自ら仮説・検証ができるため、継続的にPDCAが回せ、さらなる精度向上や効率化が可能
- 30%以上の残在庫削減を達成

【発注業務 需要予測フローとPDCAサイクル】



Copyright ©2019 by ALIGN Inc.